

平成27年度 学校評価実施報告書

3 2回目評価

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果		
1	確かな学力	主体的に考え、表現し、伝え合える能力の育成 読書の習慣化 家庭学習の習慣化	各教科での言語活動のさらなる充実 全クラス授業公開の校内研究 100冊読書の定着 朝読書の確実な実施 学校だよりによる啓発活動	児童の学習姿勢・話す・聞く態度の変容・ジョイントプログラムの結果 本を読んでいるかの意識調査・読書冊数調査 家庭での学習時間・家庭での学習準備の仕方	ジョイントプログラム国語・算数の正答率が2%上昇 読書100冊全児童100%達成 「30分以上勉強している」児童の割合は70%	⇒
2	豊かな心	豊かな体験活動の実践 望ましい言葉づかい・進んで挨拶の徹底 協働活動を通じた豊かな心の育成	ボランティア活動 農業体験 児童会を中心とした発信と地域ぐるみの取組 各活動で話し合いや協力の場を積極的に作る・保護者・地域とのクリーンキャンペーンの実施	PTAや地域行事体験活動をしたと思いますか 子どもは望ましい言葉づかい進んで挨拶ができていると思いますか 家の仕事の手伝いをしていますか きまりを守っていますか	「体験活動を希望する」児童の割合は100% 言葉づかい実現度は75%（保護者）挨拶実現度は87%（保護者） 「仕事できている」「きまり」共に高学年90%	⇒
3	健やかな体	基本的生活習慣の確立 体力の向上	早寝・早起き・朝ごはんの呼びかけ 健やかチェック実施 全校遊びやスポーツを通じた運動の習慣化	就寝・起床時刻・朝ごはん食べているか 自分からすすんで体を動かしていますか スポーツ参加状況及び体力テストの結果	9時30分まで就寝50%（児童）7時まで起床100%（高学年）朝 「うごかしている」児童の割合は100% 参加児童数は100%	⇒
4	独自の取組	学習環境整備・安全管理 小中一貫教育 情報発信の充実	学校安全ボランティア 登下校支援 校内整備点検の実施 小中合同研修会実施 積極的なホームページの更新	「学校は学習しやすいか、安全か」 小中合同研修会の実施回数 学校ホームページへのアクセス数	「学習しやすい」「安全」共に実現度100%（保護者） 授業研修会を実施 生き方チャレンジとその後の体験発表会交流 年間更新1300回アクセス数14,000回 ー 昨年の2倍	⇒

学校名(静原小学校)

自己評価		学校関係者評価	
評価日	平成28年2月25日	評価日	平成28年3月1日
評価者・組織	学校評価委員会	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
分析 (成果と課題)	自己評価に対する改善策	学校関係者評価による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
・言語活動の充実によりに全児童が主体的に感想や意見を必ず話そうとするようになった。授業づくりやジョイントプログラムの結果にも効果が出てきている。 ・自分の課題を明確にして家庭学習に取り組むようになってきた。	・授業の中で結論を明らかにしてその理由を述べる取組をさらに充実させる。 ・帯時間の計算や読書、漢字学習等の効果的な進め方について交流し全校レベルを上げる。 ・宿題の出し方・量について校内で交流し全校100%レベルに近づける。	⇒ ・学校で取り組んでいる体験活動の後の児童の感想発表がしっかりできてきている。「聞くこと」「話すこと」大人数の中でもできるようにし、思考・判断力を伸ばしていただきたい。	⇒ ・言語活動の向上につながるよう体験活動の協力をしていきたい。 ・読書の習慣化については、学校運営協議会の読書部会と連携していきたい。
・ただ体験をさせるのではなく、取り組む目的や意義を児童が自覚し、できるだけ主体的に活動できるように進められてきた。 ・挨拶や言葉遣いにしても、児童の自覚による行動化が見られるようになった。教職員の進め方が主体的になってきたことによる効果と考える。	・「自覚的実行力」という言葉が浸透しだして2年になるが、具体的にどう指導していくか、児童自身もどうすることか一定の理解につながり行動に表れてきた。さらに、全校レベルを引き上げる。	⇒ ・登下校時の見守り時や体験活動・放課後まなび教室等で児童を見ているが、自分の課題に向かって取り組む姿が増えている。 ⇒ ・協働の場面を通して児童の役立ち間につながり、自覚的実行の意識を育てることが大切。	⇒ ・ボランティア活動やクリーンキャンペーンなどは、学校運営協議会の体験活動部会がサポートしていく。 ・学校運営協議会の活動と学校教育活動の関連付けを理事会でも考えていきたい。
・早起きについて低学年の起床は遅い。就寝時刻とあわせて7時まで起床を目指したい。 ・体を動かすことが好きな児童の割合が高まっている。	・保健室だけでなく、学級通信等でも積極的にトピックとして取りあげる。 ・運動能力の低位の児童が安心して参加できるよう授業や取組の工夫をしていく。	⇒ ・健やかチェックを徹底することで啓発につながる。子どもや親への意識改革に効果があると思う。 ⇒ ・体を動かす楽しさをみんなが共有できる取組を充実してほしい。	⇒ 学校運営協議会の企画委員会でスポーツ活動の取組を考え、子どもの体力向上をサポートする。
・環境整備・維持が進んでいる。 ・生き方チャレンジ交流を通して、中学進学を見据えての指導につながられた。 ・ホームページについては、各担任の作成が増加した。各担任の取組の振り返りにもつながっている。	・気づいたことを全校で共通理解して環境整備していく。 ・小中連携を深め、先を見据えた指導に活かしていく。 ・ホームページは、学年からの発信をさらに、増やす方向で更新頻度を上げる。	⇒ ・環境整備について、防災の避難場所としての整備も大切。 ⇒ ・中学校に行っても自信を持って取り組める児童の育成をお願いしたい。 ⇒ ・ホームページは見て楽しい内容になっている。	⇒ ・環境整備について、防災の避難場所としての整備も進めていきたい。 ⇒ 地域ふれあいあいコンサートなどの小中合同行事には、地域をあげて支援していく。

4 総括・次年度の課題

- ・確かな学力の定着に向けた取組は、自覚的実行力の具体化、課題を見つけ、課題に向かって取り組む事、体験活動の後の意見交流など、関係者評価において一定の評価をいただいた。今後も、さらなる取組の充実を図り、教員の目的意識を明確にした授業構成等の改善を図っていく。
- ・学校評価を通じ、保護者や地域の方に本校の教育活動について、理解を深めていただくことができた。
- ・次年度に向けてアンケート項目と、学校教育目標との関連について点検が必要。
- ・小中9年間の教育を見据えて、小中学校で評価項目やアンケート項目を統一し、経年変化を見ていけるようにしていきたい。